ロ/シ/ア/通/信

サハリンよりプリヴィヤト

※こんにちは～英語のHiと同じ

誕生日にまつわる話

先日夫と同じ誕生日に、夫の友人に女の子が生まれました。ロシアでは、誕生日というのはとても重要なお祝いで、「祝わなければいけない」ものなのだそうです。5と0のつく歳は大きく祝うべきもので、ロシアでは50歳の誕生日を特に盛大に祝います。ただし、韓国系の人達は、日本と同様60歳（還暦）がとても重要です。

誕生後は、韓国系の人たちは、100日と1歳の誕生日が盛大なお祝いで、この辺は日本と同じです。ただし韓国系の人たちは、生まれた子供を生後1か月までは家族以外の人に見せないのだそうです。一方ロシア人は、1歳の誕生日がとても盛大らしいですが、伝統を重んじる家族は1歳まで毎月家族で祝うのだそうです。昔、乳幼児の死亡率が高かったことを考えると、ひと月ひと月が大事だったのだと思われます。赤ちゃんを見た時、一つ注意しなければならないことは、「褒めすぎてはいけない」ということです。褒めすぎは、嫉妬の裏返しであり、また悪魔を呼ぶと信じられているからです。

ロシアでは、誕生日は、その本人が職場や友人たちをパーティーに招待したり、ごちそうをふるまったりするのが習慣です。祝ってもらいたい友人が多い人は、お金がたくさんかかります。もちろん、招待された人は、プレゼントをあげますが…。サハリンは韓国系の人が多いので、「現金」をお祝いに贈ることが多いです（プレゼントを選ぶ手間が省け、もらう本人にとってもありがたい、よい習慣だと思います）。

さて、今年、夫は40歳という0のつく節目の歳を迎えたのですが、ここで、新しいことを私は学びました。ロシアでは、男性の40歳の誕生日は祝わないということです。たまたま私の同僚のロシア人男性教師が夫より少し前に40歳の誕生日を迎えた時に教えられたのです。早速、夫が人生の諸先輩方にお伺いをたてたところ、正にその通り。理由としては、男性の40歳という年齢は、体調に大きな変化が起きて大病になりやすい年齢であり、その年齢を迎えたことを悪魔に感づかれないようにお祝いはしないのだそうです。なんか日本の厄年に似ていると思いませんか？日本ではこれこれの年齢の時に、「厄年」というのがあって、それを信じている人は神社でお祓いをしてもらうのだと説明したら、興味深げに聞いていました。しかし、ロシアの場合は日をずらして祝うのは構わないという説もあり、うちでは誕生日の3日後に家族でレストランへ食事に行きました。最後に蛇足ですが、この「ロシア版厄年」、女性にはないそうです。

【オリホヴィク・美香】北見生まれの北見育ち。ロシア人の夫と中学生の息子の3人家族。サハリン在住。